

住居内面部位における浄・不浄感の序列に関する研究
(その2)

正会員 ○ 町田 大樹*1
同 川村かお里*2
同 直井 英雄*3

■研究目的■

我々は、例えば住居床に対して、同じ仕上げ、同じ清掃状態であっても、居間の床よりトイレの床は不潔で、裸足では気持ちが悪くなど感じることもある。このように、物質的なよごれではなく、場や空間の違いによって感じる心理的なけがれの感覚を、本研究では「浄・不浄感」と呼び、この感覚について、昨年度は姿勢・食べ物・掃除の3つの観点からそれぞれアンケート調査を行い、全体的な傾向を定量的にとらえた。本年度はこの中で、姿勢と食べ物の関係に着目し、姿勢と床仕上げ材、部屋の組み合わせが、浄・不浄感にどのように影響しているかを実験を通して明らかにすることを目的とする。

■実験方法■

(1) 実験装置および実験項目：図1に実験で用いた装置を、表1に実験の項目を示す。なお仕上げ材と部屋は、住宅内で最も一般的であると考えられる7種の仕上げ材と8種の部屋を設定した。

(2) 実験方法：図1のような実験装置上において、表1に示す床仕上げ材上で、被験者に、表1にある4つの姿勢をとらせ、その仕上げ材上に落とした2種類の食べ物を拾って食べられるかどうかを判断させた。回答は、食べられない(抵抗がある)場合に「○」、食べられる(抵抗がない)場合に「×」の2水準とした。また面部位については、机上面では平座位・椅座位の姿勢をとったときに食べ物が机の上に落ちたとして、座面では椅座位の姿勢をとったときに食べ物が自分の座っている椅子の座面に落ちたとして判断させた。その際は床仕上げ材を考慮に入れないよう、灰色のカットニングシートを用いた。なお、仕上げ材と部屋の組み合わせで経験のない不自然なものは質問項目から省いた。

(3) 被験者：本学学生等20人(男性11人、女性9人)を対象とした。

■実験結果および考察■

(1) 各項目・各条件の影響程度の比較：各面上の食べ物を食べることに抵抗がない(×)場合を1点とし、ある(○)場合を0点として、全ての被験者の回

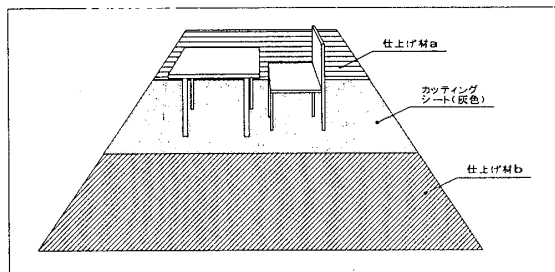


図1 実験装置

表1 実験項目

項目	設定条件
面部位	机上面、座面、床面
姿勢	立位、椅座位、平座位、臥位
食べ物	お菓子 皮をむいたリンゴ
床仕上げ材	畳、絨毯、板、C.F.、陶磁器質タイル Pタイル、モルタル
部屋	客間・応接間、居間、寝室・自室、食堂 台所、廊下、トイレ、バルコニー・テラス

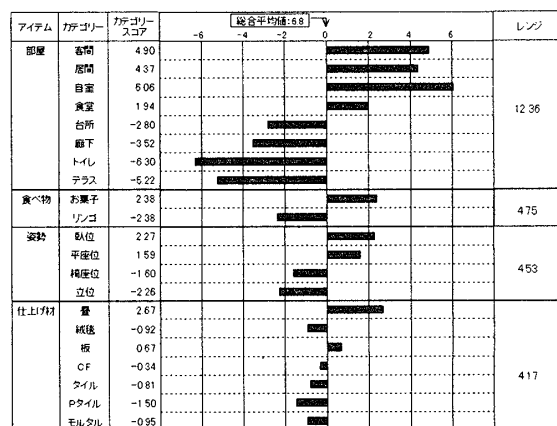


図2 各項目・各条件の影響程度の比較(決定係数: 0.8702)

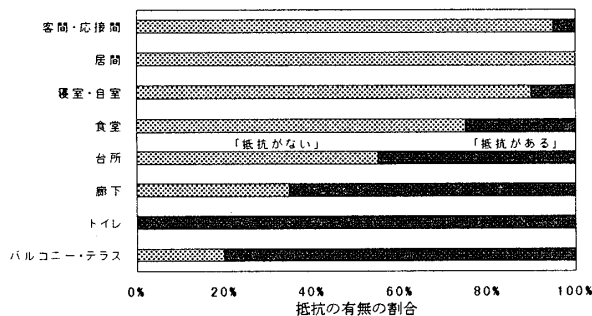


図3 部屋別に見た抵抗の比較(お菓子・臥位・板)

A Study on the Order of Sense of Cleanliness or Dirtiness to Surfaces in Dwelling Space(2)

MACHIDA Hiroki et al.

答を集計し、その総合得点を目的変数にとり、各実験項目を4つの説明変数として設定し、数量化I類により分析した結果を図2に示す。図2より、特に部屋の違いによる影響が他の項目より大きいことが分かる。残りの3つの項目を比較すると、食べ物>姿勢>床仕上げ材の順番になってはいるものの、レンジの差があまりなく、「抵抗がない」という判断に最も影響を与えているのは部屋の違いであると考えられる。以下、各項目ごとに考察する。

(2) 部屋の違いについて：図2より、8種類の部屋は大きく「自室/客間/居間」「食堂」「台所/廊下」「トイレ/テラス」の4つのグループに分けられる。図3は、お菓子・臥位・板のときの抵抗に関する回答率を部屋別に示したものであるが、この図にもこの傾向が顕著に表れている。

(3) 食べ物の違いについて：図4は、各部屋において、どの仕上げ材が食べ物の違いによる影響を最も受けているかを示したグラフである。縦軸は、お菓子は抵抗がないと答えた人数の全姿勢の平均値から、リンゴのそれを引いたものであり、食べ物の違いによる抵抗の差を意味する。この図を見ると、絨毯とC.F.で食べ物の違いによる差が大きく、特に絨毯においては、畳や板に比べて2倍近い差になっている。畳や板は表面的な汚れが主だが、絨毯は中にある汚れやほこりが、水分を含んだリンゴには大きく影響しているものと思われる。

(4) 姿勢の違いについて：図2より、「臥位/平座位」と「椅座位/立位」に二分できる。図5は、図2の結果からその2グループごとに平均をとってその違いを表した図である。図5を見てもこの2グループで2倍程度の差になっており、床に接している度合いで影響が明確に分かれている。図6は、床面に加えて机上面と座面における抵抗を比較した。これを見ると、机上面と座面は、床面より抵抗がないことが分かる。これら2つの図から、その面に直接触れていること、面との距離が近いことが「抵抗が無い」という判断に大きく関与しているものと考えられる。

(5) 仕上げ材の違いについて：図2を見ると、畳は抵抗無しの方に大きく作用している。このことから、被験者に畳だけは別格という感覚があるのではないかと推察される。また、畳とは全く逆の特徴を示しているのが絨毯である。過去に行ったヒエラルキー感の研究では、格が上位の仕上げ材として扱われていた(図7)のに対し、今年度の結果を見ると下から3番目の位置になっている。仕上げの格は上位

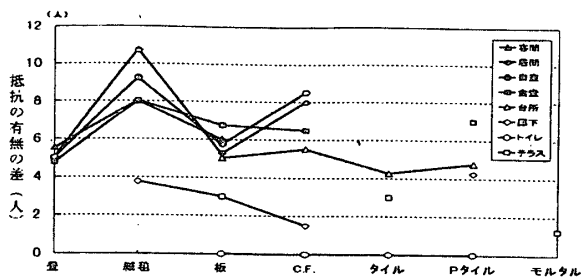


図4 仕上げ材別に見た食べ物の違いの影響

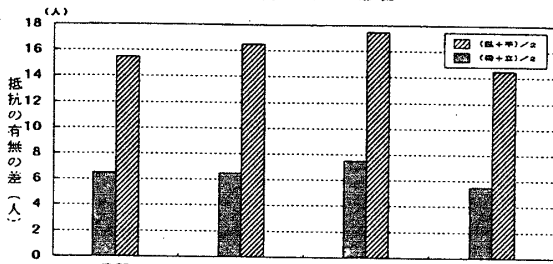


図5 部屋別に見た姿勢の影響(リンゴ・板)

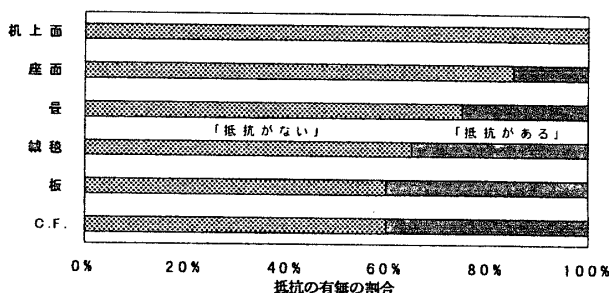


図6 机上面・座面・床面における抵抗の比較(お菓子・居間・椅座位)

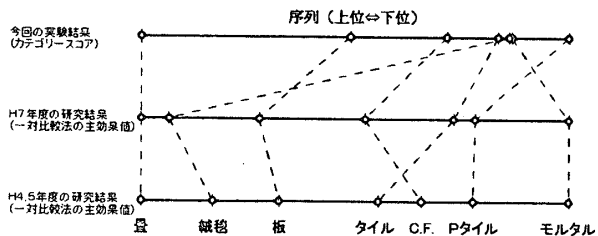


図7 仕上げ材の序列についての過去の研究結果との比較

でも、食べ物、特にリンゴにおける抵抗が多いことからこのような結果になったと思われる。

図まとめ

以上、本研究により住居内面部位に対する浄・不浄感の序列に関して概略の傾向が把握できた。この中で浄・不浄感に与える影響の程度は、部屋、食べ物、姿勢、仕上げ材の順になっていることなどが明らかになった。なお本研究の際には、平成9年度東京理科大学修論生原朝子氏と卒研生下田裕子氏、渡辺仁海氏の協力を得た。ここに記して謝意を表する。

- 参考文献：1) 平成5年度修士論文 「仕上げ材の違いによる住居床のヒエラルキー感に関する研究」
- 2) 平成7年度修士論文 「仕上げ材および設置寸法の違いによる住居床のヒエラルキー感に関する実験研究」
- 3) 平成8年度卒業論文 「住居内面部位における浄・不浄感の序列に関する研究」

*1 東京理科大学大学院生 Graduate Student, Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo
 *2 同大学助手 Research Assoc., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo, M. Eng.
 *3 同大学教授・工博 Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Science Univ. of Tokyo, Dr. Eng.